

全国中学・高校ディベート選手権大会要綱改正について

2022年2月 全国教室ディベート連盟 試合運営委員会

改正の趣旨

大会前に登録する「登録選手」と試合直前に出場メンバー届にて届け出る「出場選手」の定義を明確にしました。

複数日にわたって開催される大会について、登録選手を変更することは、主催者が事情を認めれば可能としました。

学校に4名以上の出場可能な選手がいるにも関わらず、大会開催日によって2～3名を登録選手とすることは原則認められません。例えば、2年生6人、1年生5人がいる学校で、1日目は2年生6人を登録し、2日目は2年生が事情で出場できないので、1年生の中から3人のみを登録する、といったことは認められません。

この場合は1年生4人以上を登録してください。

不測の事態（急病、通信障害等）で試合続行が困難な選手がいる場合は、出場選手から代わりにスピーチをすることを明確にしました。代わりの選手は「登録選手」ではなく「出場選手」であることにご留意ください。

大会要綱には原則論を記載しています。個別の事情が発生した時点ですみやかに大会主催者に報告、相談してください。

新旧対照表

第5条 チームと参加制限

現行版	改正版
	<p>第5条 <u>大会前に主催者に登録申請した各チームの選手を登録選手と呼称する。</u> <u>また、登録選手のうち、それぞれの試合に参加する者を出場選手と呼称する。</u></p>
<p>第5条 大会の登録選手は4～6名、各試合の出場選手は4名とする。 各試合の出場選手は試合開始前に出場メンバー届にて届け出る。 ただし、事情がある場合には2名あるいは3名での登録及び試合出場を認めることがある。</p> <p>認められるのは、4名以上が出場するよう努力をしたにもかかわらず、やむをえず4名以上の出場ができなかった場合に限られる。</p>	<p>2 <u>大会の登録選手は4～6名とし、そのうち4名を試合ごとに選出し、出場選手として試合開始前に届け出る。</u></p> <p>ただし、事情がある場合には2名あるいは3名での登録及び<u>一部または全ての試合の出場</u>を認めることがある。</p> <p>認められるのは、4名以上が出場するよう努力をしたにもかかわらず、やむをえず4名以上の出場ができなかった場合に限られる。</p> <p><u>なお、大会開催日によって登録選手を変更することは、主催者が事情を認めた場合に限り認められる。</u> <u>その場合、登録可能な選手が4名以上いるにも関わらず、大会開催日によって2名あるいは3名を登録することは原則として認められない。</u></p>
<p>2 2名あるいは3名での大会登録を希望するチームは、大会登録時に申込用紙に事情を記入しなければならない。主催者が事情を認めた場合には、大会への出場が認められる。</p>	<p>3 (変更なし)</p>
<p>3 4～6名で登録したチームが、大会当日になって2名あるいは3名で試合出場を希望する場合には、主催者にあらかじめ事情を説明しなければならない。主催者が事情を認めた場合には、大会への出場が認められる。</p>	<p>4 (変更なし)</p>

<p>4 原則として、主催者に提出した登録メンバーの変更は認めない。</p>	<p>5 (変更なし)</p>
	<p>6 (新設) <u>不測の事態により、試合続行が困難な選手がいる場合は、当該試合の別の出場選手が代わりにスピーチを行う。その場合、主催者判断で第6条の制限を緩和することがある。</u> <u>ただし、その試合の出場選手でない登録選手を代わりとすることはできない。</u></p>

第7条 予選

現行版	改正版
<p>第7条 2 (5) 以上で決定しない場合、順位を記載したくじを引き、順位を決定する。その際は主催者の立会いのもと、じゃんけんによりくじを引く順番を決定し、その順番に従い抽選を行うこととする。</p>	<p>第7条 2 (5) 以上で決定しない場合、<u>主催者の判断・立会いの下、無作為な方法で順位を決定する。</u></p>

第8条 本選

現行版	改正版
<p>第8条 本選では、予選リーグを通過した高校16チーム、中学16チームにより、主催者が設定したトーナメント表に従い対戦し、入賞チームを決定する。 本選では肯定・否定のどちらでディベートするかは主催者立会いのもと、チーム代表者によるじゃんけんにより決定する。じゃんけんに入ったチームが肯定側、負けたチームが否定側となる。</p>	<p>第8条 本選では、予選リーグを通過した高校16チーム、中学16チームにより、主催者が設定したトーナメント表に従い対戦し、入賞チームを決定する。 本選では肯定・否定のどちらでディベートするかは主催者立会いのもと、<u>主催者が定める方法で無作為に決定する。</u></p>

〔参考〕 関係している現在の条文

(チームと参加制限)

第5条 大会の登録選手は4～6名、各試合の出場選手は4名とする。各試合の出場選手は試合開始前に出場メンバー届にて届け出る。ただし、事情がある場合には2名あるいは3名での登録及び試合出場を認めることがある。認められるのは、4名以上が出場するよう努力をしたにもかかわらず、やむをえず4名以上の出場ができなかった場合に限られる。

2 2名あるいは3名での大会登録を希望するチームは、大会登録時に申込用紙に事情を記入しなければならない。主催者が事情を認めた場合には、大会への出場が認められる。

3 4～6名で登録したチームが、大会当日になって2名あるいは3名で試合出場を希望する場合には、主催者にあらかじめ事情を説明しなければならない。主催者が事情を認めた場合には、大会への出場が認められる。

4 原則として、主催者に提出した登録メンバーの変更は認めない。

(出場選手が4名未満の場合の試合の取り扱い)

第6条 試合開始時点で2名以上の選手が揃わない場合には、その試合は不戦敗となる。

2 2名で試合に出場するチームは、立論と質疑を別の選手が担当し、第1反駁と第2反駁を別の選手が担当しなければならない。

3 3名で試合に出場するチームは、立論、第1反駁、第2反駁を異なる選手が担当し、第1反駁もしくは第2反駁を担当する者が質疑を担当しなければならない。

(予選)

第7条 予選リーグは中学・高校共に8組に分かれて行う。予選リーグの組み合わせは主催者が決定する。予選は総当たり戦により行い、リーグ1位、2位のチームが決勝トーナメントに進出する。予選リーグでは少なくとも肯定・否定1回ずつ試合の機会があるように設定し、肯定・否定のどちらでディベートするかはあらかじめ主催者が決定する。予選リーグの組分けは地区大会の結果により決定し、同組に同地区が入らないよう配慮する。

2 予選の順位は以下の各号に基づき決定する。

(1) 第1基準 勝ち数の多いチームの順位が上となる。

(2) 第2基準 勝ち数が同じ場合、得票数の多いチームの順位が上となる。

(3) 第3基準 勝ち数・得票数が同じ場合、コミュニケーション点の合計が高いチームの順位が上となる。(4) 第4基準 勝ち数・得票数・コミュニケーション点も同じ場合、当該チーム同士の直接対決の勝者の順位が上となる。

(5) 以上で決定しない場合、順位を記載したくじを引き、順位を決定する。その際は主催者の立会いのもと、じゃんけんによりくじを引く順番を決定し、その順番に従い抽選を行うこととする。

3 不測の事態によりチームが不在、あるいは出場可能選手が2名未満になるなど、試合実施不能となった場合、主催者は試合開始時刻または対戦の変更ないし試合不成立による不戦勝・不戦敗の決定を行う。対戦チーム双方が欠場した場合は、両チームを不戦敗とする。試合記録上の処理については、以下の通り行う。

(1) 予選リーグにおいて不戦勝となったチームは勝ち数1、全てのジャッジの得票を得たものとし、コミュニケーション点は予選リーグの他の試合の平均点を獲得したものとする。

(2) 予選リーグにおいて不戦敗となったチームは勝ち数0、得票数0、コミュニケーション点は予選リーグの他の試合の平均点を獲得したものとする。

4 予選を欠場した場合、本戦の参加は認めない。ただし、体調不良や交通事情などのやむを得ない事情の場合は主催者の判断により本戦参加を認める。

(本選)

第8条 本選では、予選リーグを通過した高校16チーム、中学16チームにより、主催者が設定したトーナメント表に従い対戦し、入賞チームを決定する。本選では肯定・否定のどちらでディベートするかは主催者立会いのもと、チーム代表者によるじゃんけんにより決定する。じゃんけんに勝ったチームが肯定側、負けたチームが否定側となる。

2 準決勝で負けた2チームは、両チームとも3位とし、3位決定戦は行わない。

3 決勝トーナメントの対戦発表後の棄権は原則認めない。本選の対戦の発表後に例外的に試合実施不能のチームが出た場合にも、対戦枠の変更や予選通過チーム以外からの繰り上げなどは行わず、当該チームの対戦予定チームを不戦勝として本選を進める。対戦チーム双方が欠場した場合は、両チームを不戦敗とする。不戦勝・不戦敗となった場合、その試合のコミュニケーション点は記録なしとし、ベストコミュニケーション賞における集計対象の対象外とする。